

登録簿(鳥獣保護管理調査コーディネーター)

登録番号	R11005	
(ふりがな) 氏名	みつおか かなこ 光岡 佳納子	
連絡先	名称	一般財団法人自然環境研究センター 第一研究部
	役職	主席研究員
専門分野	鳥獣保護管理調査コーディネーター	
専門とする鳥獣	<input type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input checked="" type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ、ハクビシン、ヌートリア) <input type="checkbox"/> その他 ()	
主な活動地域	<input checked="" type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄	
鳥獣保護管理活動の経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理鳥獣捕獲等事業評価のためのニホンジカ出猟カレンダーとりまとめ、個体数推定。 ・第6回自然環境保全基礎調査以降のクマ類(ヒグマ・ツキノワグマ)・カモシカの全国分布調査。 ・外来哺乳類(アライグマ・ハクビシン・ヌートリア)の全国分布調査の実施及びとりまとめ。 ・東京都のニホンザル生息状況と被害状況及び被害対策実施状況調査の実施。 ・外来哺乳類(アライグマ・ハクビシン・ヌートリア)の全国分布調査の実施及びとりまとめに従事した。 	

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関り情報の提供をします。

鳥獣保護管理調査コーディネーター

光岡 佳納子

一般財団法人
自然環境研究センター

対象鳥獣

イノシシ
ニホンジカ

活動地域

新潟県

● 事業内容

新潟県指定管理鳥獣捕獲等事業
（新潟県発注業務）

■ 事業の背景

新潟県では、イノシシについては平成15年までは上越地域の一部地域で生息が確認されていたが、現在では本土部における県内の全域で生息が確認され、個体数も増加している。また、ニホンジカについては平成20年度に上越地域で数頭の捕獲が報告されて以来、令和2年度には捕獲数が1000頭を超えるなど、個体数が増加している。新潟県では平成28年度より指定管理鳥獣捕獲等事業が実施されており、イノシシ及びニホンジカの捕獲を推進するための対策が実施されている。

県の指定管理鳥獣捕獲等事業は毎年プロポーザルにより受託業者を決定し実施されている。受託者より報告のあった作業日報を整理すること、また翌年度の事業計画作成のため実施年における指定管理鳥獣捕獲等事業の評価シートを作成することが登録者に求められた。

実施した内容

令和3年度の新潟県の指定管理鳥獣捕獲等事業では、イノシシ・ニホンジカの捕獲事業、効果的捕獲促進事業（ICTくりわな捕獲事業）の3事業が実施された。各事業の捕獲従事者より提出された作業日報から実施規模、捕獲目標達成状況、錯誤捕獲発生状況などを整理するとともに、各事業による捕獲成果をメッシュごとに捕獲数、捕獲効率、目撃効率で整理した。また、事業を通じた県全体の捕獲推進事業への効果についても評価を行った。

事業の成果

事業のうち、イノシシについては目標頭数400頭に対して327頭（達成率81.8%）、ニホンジカについては目標頭数30頭に対して40頭（達成率133%）、ICTくりわな捕獲事業については目標頭数90頭に対して48頭（達成率53%）という結果となった。これら3事業は、いずれもイノシシとニホンジカの生息数が多い上越地域を中心に実施されたこと、また当初予定以上の捕獲努力量が払われたことにより、目標の達成率が高い結果となった。

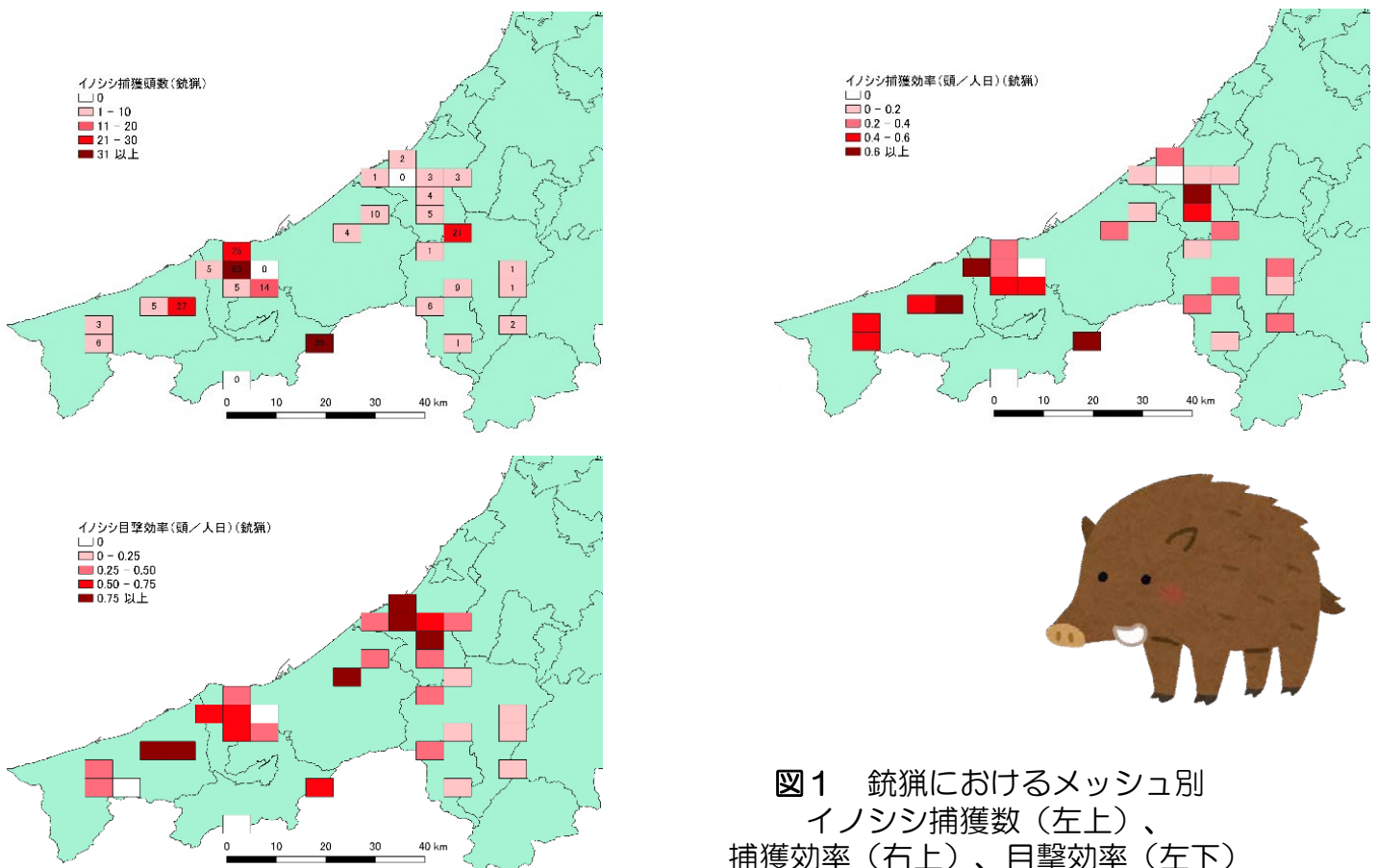


図1 銃猟におけるメッシュ別イノシシ捕獲数（左上）、捕獲効率（右上）、目撃効率（左下）

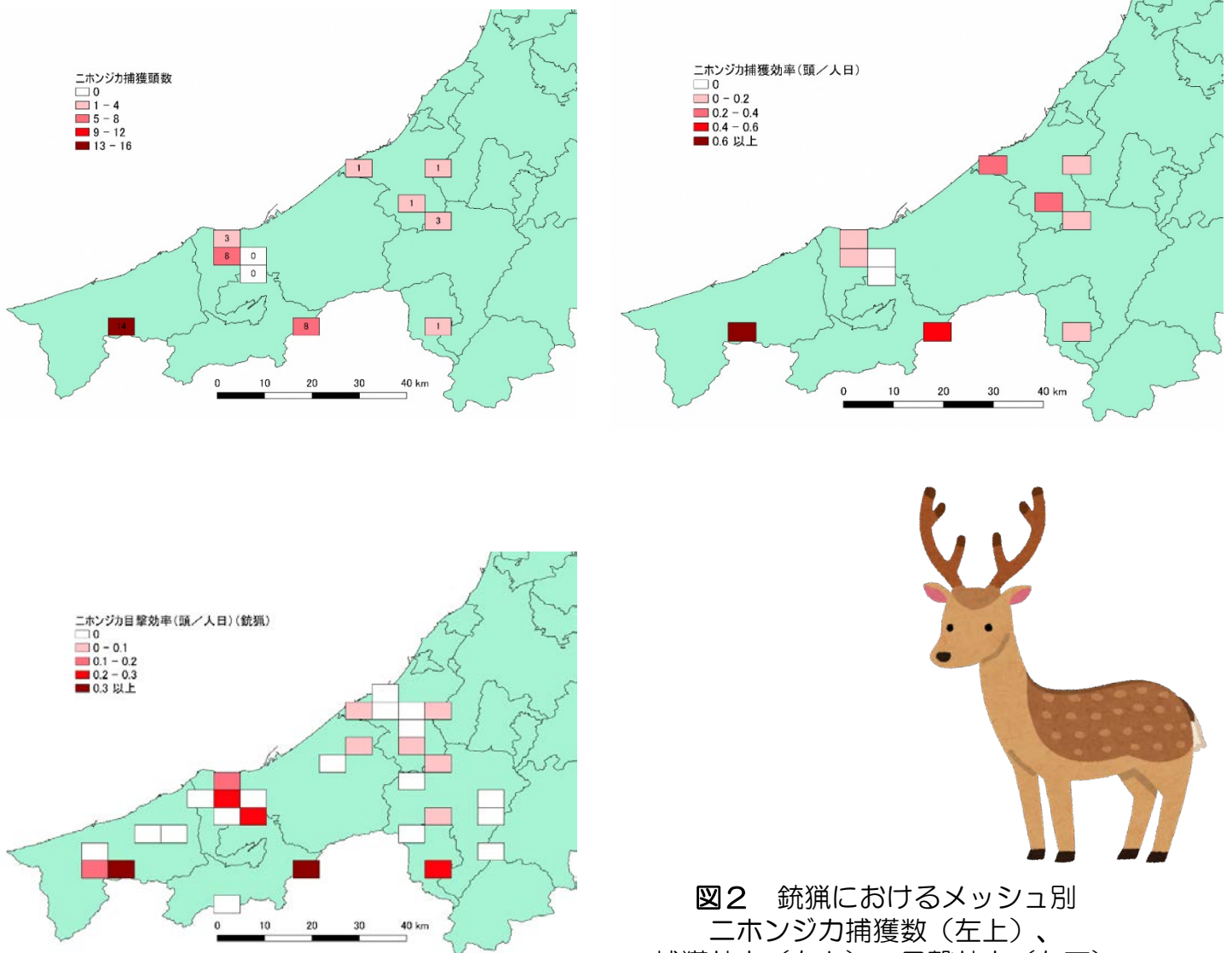


図2 銃猟におけるメッシュ別
ニホンジカ捕獲数（左上）、
捕獲効率（右上）、目撃効率（左下）

※図はいずれも令和3年度の指定管理鳥獣捕獲等事業の結果を表したものの。

事業の成果

新潟県内のイノシシ・ニホンジカの推定生息頭数は上昇傾向を示していること、生息が全県に拡大していること、更にICTくくりわなの実証実験によりある程度の労力削減に効果が確認されたことから、翌年度の指定管理鳥獣捕獲等事業以降、さらに捕獲事業に注力し、イノシシ・ニホンジカの捕獲強化に舵が切られた。具体的には、捕獲実施地域の拡大、実施事業予算の拡大、捕獲目標頭数の増加、などが検討された。なお、新潟県における指定管理事業捕獲等事業の評価シートは県のHPで公開されている。